



# 歴史を訪ねて...

笠岡市の文化財

高島の歴史は古く、旧石器・縄文・弥生・古墳時代から古代・中世まで、各時代の遺物が出土します。特に、高島の北岸、王泊<sup>（王泊）</sup>の高島神社境内地（王泊遺跡）は、考古学上、貴重な遺跡として、市の史跡に指定されています。

『古事記』『日本書紀』には、その昔、神武天皇が東征の途上、吉備の「高島宮」に数年間滞在し、船や兵隊、兵糧を蓄えたことと記されています。真偽のほどはともかく、笠岡近隣では、古くから「高島宮」とは、この高島のことである」と考えられてきました。そして、その顕彰を希望する地元の要請を受けて、昭和十八年（一九四三）、研究者の鶴久森氏が試掘調査を行い、王泊遺跡で「住居跡」らしき炉跡を発見しました。また、鶴久森氏の要請に応じて、東京大学、次いで京都大学の手で発掘調査が行われました。

王泊遺跡からは、古墳時代の土師器・須恵器・師楽式土器などが出土しました。師楽式土器は、瀬戸内沿岸に広く分布しており、その後の研究によって、濃縮した海水を煮詰めて塩をつくるための製塩土器であることが解明されています。また、当初「住居跡」とされていた炉跡は、現在では製塩のための炉跡であったと考えられています。



高島の遺跡  
市指定史跡

## 竹喬美術館みどころ 10

特別展 「岡本豊彦から小野竹喬

— 岡山における四條派の系譜 —



小野竹喬  
〈洛外の山家〉  
明治39年頃

明江戸時代後期の絵画界は、大きく分けると南画系と写生画系とに二分されます。そのうち、目で見た具体的な対象を描こうとする写生画系は、円山応挙を祖とする円山派から四條派へと展開し、京都の絵画の主流になりました。今回の展覧会は、京都で制作を行った小野竹喬の芸術を、京都と岡山の四條派の伝統のなかで見直してみようとするものです。展示室には、四條派の祖である呉春や、その弟子である岡山出身の岡本豊彦、さらには与謝蕪村、池大雅、円山応挙や、竹喬の師・竹内栖鳳の作品約70点が並びます。この展覧会を通して、竹喬芸術について新しい発見をしていただけたらと思います。

### 展覧会と行事のご案内

特別展「岡本豊彦から小野竹喬—岡山における四條派の系譜」  
2月7日(土)～3月15日(日)  
休館日 毎週月曜日  
開館時間 9:30～17:00  
(入館は16:30まで)  
一般800円 市内在住の小中学生及び65歳以上の人は入館無料です。

講演会「四條派の系譜 京都と岡山」  
原田平作先生(大阪大学名誉教授・愛媛県立美術館名誉館長)  
2月15日(日)13:30～  
笠岡グランドホテル  
(聴講無料・要予約)  
☎63-3967

〒714-0087  
笠岡市六番町1-17  
☎63-3967  
ホームページ  
<http://www.city.kasaoka.okayama.jp/0013/0001.html>

## 今月の表紙

笠岡の冬の風物詩「カブトガニ駅伝」が12月21日、笠岡陸上競技場を発着点として男子19<sup>キ</sup>、女子13<sup>キ</sup>・2<sup>キ</sup>のコースで行われ、66チーム526人のランナーが参加しました。選手たちは、時折小雨の降る中、沿道の声援に後押しされ、一生懸命タスキをつないでいました。

## 係から

「にほんの里」〇〇選（選定委員長 映画監督 山田洋次、主催 朝日新聞社、(財)森林文化協会)の一つに真鍋島が選ばれました。その後、紙面やテレビ番組で各地の里と共に紹介されます。「なつかしい風景や誇るべき暮らしの文化を残しているような、にほんの里」の一つとして笠岡市の魅力を日本中の人に知って貰う契機になればと念じて、昨秋、現地調査に訪れた調査スタッフに資料を渡しました。選考結果の発表は一月六日。嬉しいお年玉(笠)

発行日／平成21年2月1日  
発行／笠岡市役所  
編集／企画政策課  
〒714-8601 笠岡市中央町1-1  
☎69-2110

印刷／(株)国輝堂 ☎67-5111



※この広報は再生紙を使用し地球環境にやさしい植物性大豆インキで印刷しています。